

## 活動状況報告（3月）

スポーツコース 5期生 太田 ゆき菜

アメリカも春が訪れ、少しずつ暖かくなってきました。今月は車いすバスケットボールの大学全米選手権についてレポートしたいと思います。

3月の2週目に女子、3週目には男子の車いすバスケットボールの大学全米選手権が開催されました。1シーズンかけて毎月カレッジゲームがおこなわれてきましたが、シーズンのゲーム結果に基づき算出されたランキングから全米選手権のトーナメントの組み合わせが決まるという仕組みで、私が帯同したイリノイ大学はランキングが3位で少し厳しい枠からのスタートとなりました。今年のチームは4年生が多く、チームの半数がラストシーズンだったということもあり、多くの選手が集大成として望んだ大会だったため、プレッシャーも多い中で独特の雰囲気にも包まれながらの大会となりました。日本でいうインターハイやインカレのようなもので、プレーできる期間が決まっているというのは学生スポーツの特徴であると思います。パラスポーツのカレッジリーグはまだ日本には存在しません。4年間という限られた時間の中で大学生活を満喫しながら、熱く仲間たちとプレーする時間はきっとその後の人生のベースを築いていくものになると感じます。もちろん毎日ハードです。朝練、授業、筋トレ、夕方の練習、大量の宿題などなど。しかし学生パラアスリートとして青春を過ごせる経験は彼らの人生において何にも変えがたいとても貴重なものになると感じます。そして楽しく生き活きとスポーツをする選手たちがここにはいます。日本の子供達にもこの景色を見てほしいなと思うし、もしチャレンジしたい選手がいたら、是非アメリカのカレッジスポーツにチャレンジしてみたいなと思います。夏休みには子供達が参加できるジュニアキャンプの機会もあります。今は大学チームのSNSにも色々な情報がアップされているので興味のある方は是非見てみて下さい。

また、全米車いすバスケットボール協会は私が現在留学しているイリノイ大学が立ち上げに深く関わっているのですが、ジュニアカテゴリーの選手の紹介文に必ず将来のビジョンを書く欄があるという特徴があって、これは協会創設当時からおこなわれてきたことで、アカデミックとスポーツ、人生のトータルを大切にするという想いが込められているそうです。また、大学全米選手権では試合後に Academic All-America という学業優秀選手の表彰があります。これもまた、創始者の”アカデミックとスポーツ”という想いが込められているそうです。

3月中旬には留学を考えている北海道のパラスポーツチームのチームメイトがアメリカを訪れ、大会や練習、施設をみてまわったり、現地のコーチや選手と話しをしたりしました。実際のアメリカの様子を感じ、少しでも将来の選択肢が広がったのなら嬉しいですし、北海道から海外にチャレンジする選手や若者が増え、競技レベルはもちろん、人生をエンジョイし、国際感覚を持った若者が増えていくことは未来の北海道をより素敵なものにしていくと思うので、私ができることは積極的に協力したいと思います。

話は戻りますが、全米選手権に私はベンチスタッフとして参加し、試合前練習のシュートリバウンドのサポートやトレーナーのサポート、ベンチからの声出し、応援などを行いました。結果は男子、女子共に3位で、もちろん優勝を目指していたので、準決勝のあとはたくさんの涙がみられ感情的になりましたが、そんな光景をみながら、パラスポーツを通してこうやって抱き合っただけで涙できるくらい熱く青春できる環境がとっても光って見えました。例え障がいがあってもこのように大学でスポーツに全力を注げる環境はアメリカが長年かけて作り上げてきた努力の賜物だと思います。

私は 20 年以上日本でスポーツを経験し、スポーツに対して良くも悪くも色々な想いがありましたが、今シーズンチームに帯同したことによって私自身のスポーツに対する想いや見え方も少し変化しました。大会前の最終練習時に日本を知っているコーチが私に投げかけた言葉が ”日本人はハードワーカーで練習もたくさんするし、タフだけど…本当にスポーツを楽しんでる？” でした。考えさせられます。

大会直後は私自身も少々燃え尽きていましたが、次は陸上チームがシーズンインなので切り替えて次に向かって日々の生活を送っています。3 月末から 4 月頭にかけては成人男子の全米選手権にクラシファイアとして参加しました。これについては次回レポートしたいと思います。

